

経済・金融 フラッシュ

【東南アジア経済】

ASEANの貿易統計(4月号)

～輸出が3ヵ月連続で減少、米国向け急伸も貿易停滞懸念を払拭できず

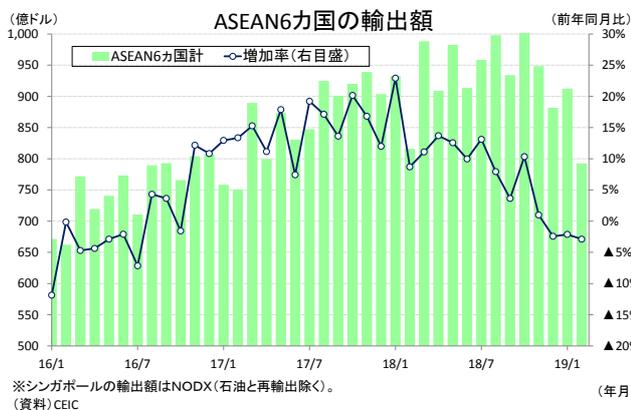
経済研究部 准主任研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

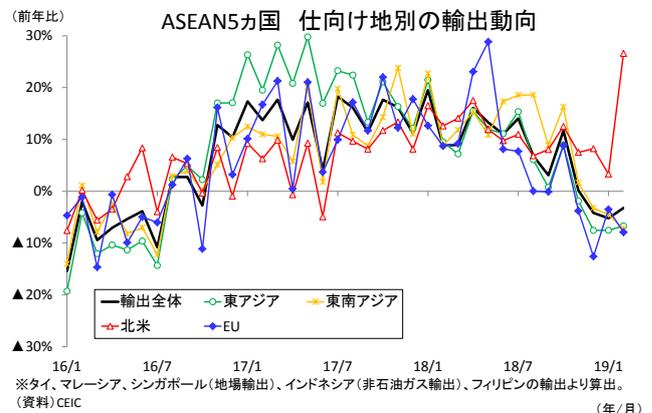
19年2月のASEAN主要6カ国の輸出（ドル建て、通関ベース）は前年同月比2.9%減（前月：同2.1%減）と低下した（図表1）。輸出の伸び率は昨年前半まで堅調に推移していたが、年後半からは海外経済の減速やITサイクルのピークアウト、米中貿易戦争、油価下落などを受けて低下傾向で推移、直近3ヵ月は小幅のマイナス成長が続いている。

ASEAN5カ国の仕向け地別の輸出動向を見ると、2月は東アジア向け（同6.7%減）と東南アジア向け（同7.2%減）、EU向け（同7.9%減）がそれぞれ低迷した（図表2）。一方、増加傾向を続ける北米向け（同26.6%増）は2月にタイで実施した大規模軍事演習後の武器の出荷により大きく上昇した。これは一時的な輸出の上振れであり、貿易停滞の懸念を払拭するものにはならないだろう。

（図表1）



（図表2）

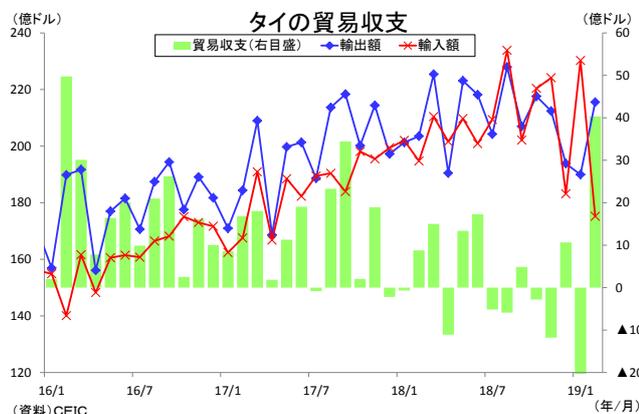


タイの19年2月の輸出額（ドル建て、通関ベース）は前年同月比5.9%増（前月：同5.6%減）と上昇した。輸出は昨年前半まで概ね堅調に推移した後、年後半からは米中貿易摩擦や世界経済の減速など先行きの不透明感が強まるなかで電子機器を中心に主要工業製品が減少傾向にあるが、2月は大規模軍事訓練後の武器の出荷と貨幣用金の輸出が牽引してプラスとなった。一方、輸入額は前年同月比10.0%減（前月：同14.0%増）と低下した結果、貿易収支は40.3億ドルの黒字となり、前月から80.7億ドル改善した（図表3）。

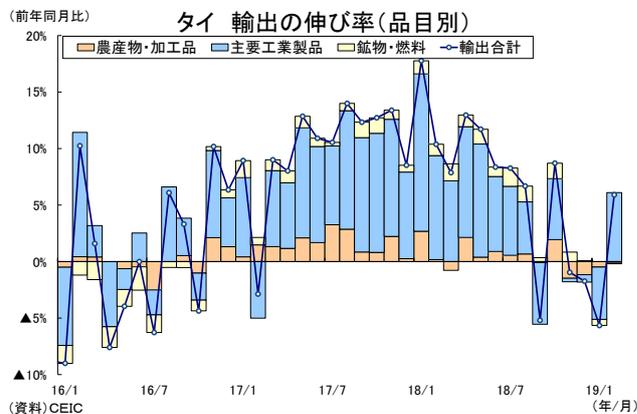
輸出を品目別に見ると、全体の約8割を占める主要工業製品は同7.5%増（前月：同5.9%減）と上昇した（図表4）。工業製品の内訳を見ると、主力の電子機器（同8.4%減）や家電製品（同2.9%減）、機械・装置（同0.9%減）、石油化学製品（同3.9%減）、自動車・部品（同12.9%減）など

が幅広い品目で低迷したが、その他製造品（同252.5%増）と非貨幣用金（同105.2%増）が大幅に増加した。一方、鉱業・燃料は同1.2%減（前月：同12.0%減）と、石油製品を中心に低迷した。また農産物・加工品も同0.9%減（前月：同2.9%減）と低調だった。ゴム製品（同6.3%増）が3ヵ月ぶりにプラスとなったものの、国際市況が下落している天然ゴム（同15.8%減）とコメ（同21.5%減）が低迷した。

（図表3）



（図表4）

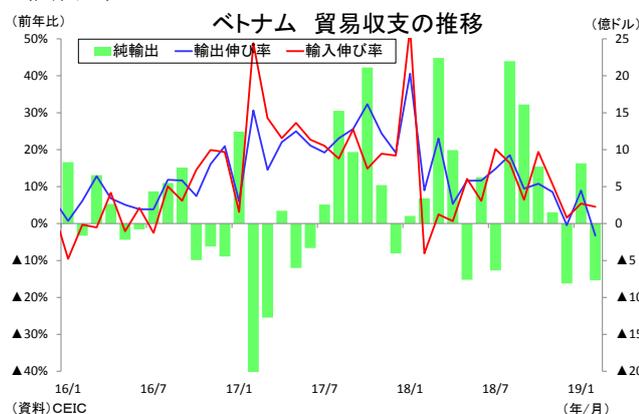


ベトナムの19年2月の輸出額（ドル建て、通関ベース）は前年同月比3.3%減（前月：同8.9%増）と低下した。輸出の伸び率は昨年概ね堅調に拡大していたが、年末に主力の電話・部品が落ち込み、今年2月は牽引役のアパレル関連が伸び悩んで2ヵ月ぶりのマイナスとなった。また輸入額も前年同月比4.6%増（前月：同5.4%増）と低下した結果、貿易収支は7.7億ドルの赤字となり、前月から15.3億ドル悪化した（図表5）。

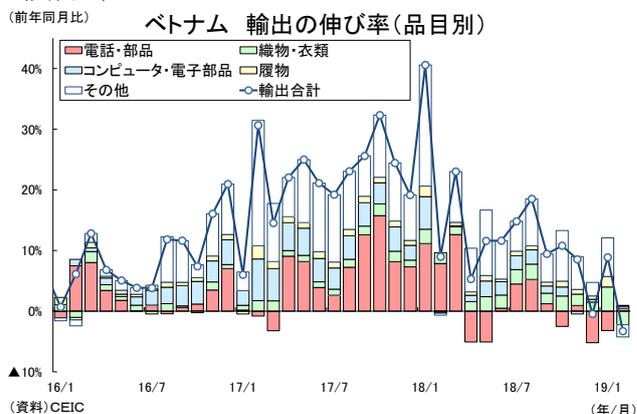
輸出を品目別に見ると、まず輸出全体の約2割を占める電話・部品が同2.0%増（前月：同16.3%減）と小幅に増加、コンピュータ・電子部品も同3.1%増（前月：同0.2%減）とプラスに転じた（図表6）。アパレル関連では、織物・衣類が同19.6%減（前月：同32.6%増）と大幅に減少、履物が同2.1%増（前月：同24.7%増）と鈍化した。農産物は、カシューナッツ（同21.3%減）と野菜（同13.0%減）、コーヒー（同24.5%減）、コメ（同30.5%減）など幅広い品目で減少した。

輸出を資本別に見ると、全体の7割を占める外資系企業が同2.9%減（前月：同5.0%増）、地場企業が同4.2%減（前月：同17.8%増）となり、それぞれ減少した。

（図表5）



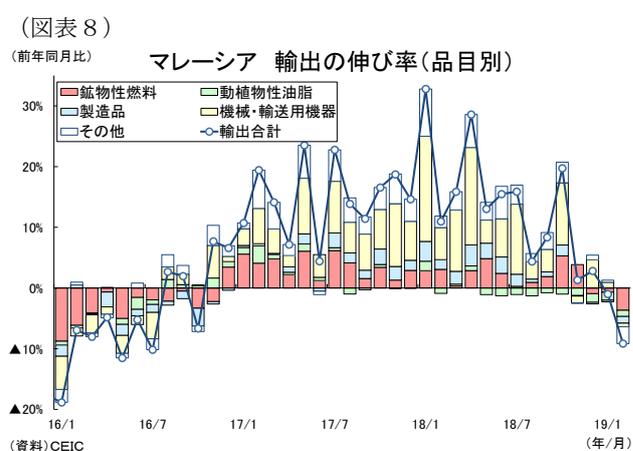
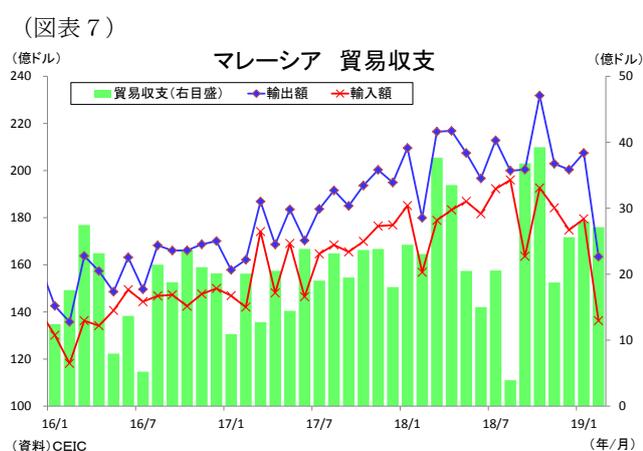
（図表6）



マレーシアの19年2月の輸出額（ドル建て、通関ベース）は前年同月比9.2%減（前月：同1.0%

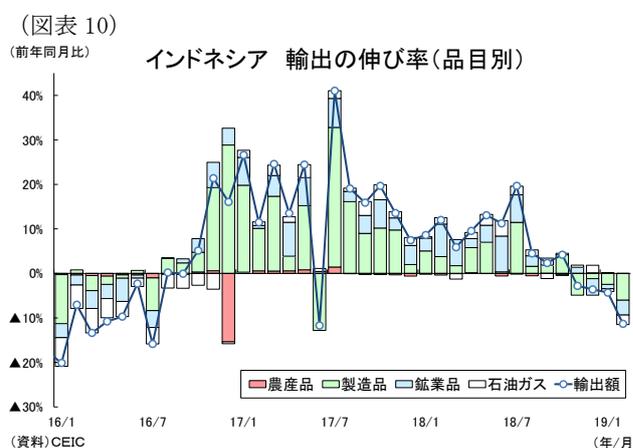
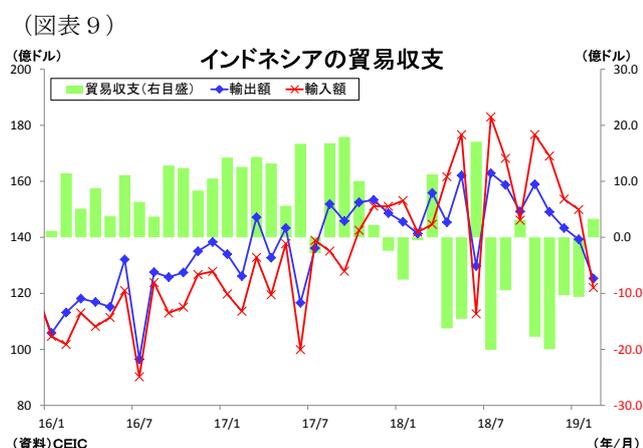
減)と低下した。輸出の基調は昨年から主力の電気・電子製品を中心に増加傾向を維持してきたが、年後半からはベース効果の剥落やパーム油の出荷減少により増勢が鈍化、今年1月には石油需要の低迷を受けて2016年10月以来のマイナス圏に突入した。また輸入額も前年同月比13.1%減(前月:同3.0%減)と低下した結果、貿易収支は27.1億ドルの黒字と、前月から0.8億ドル黒字が縮小した(図表7)。

輸出を品目別に見ると、全体の約4割を占める機械・輸送用機器は同1.4%減(前月:同2.1%増)と、主力の電気・電子製品(同0.6%増)こそ増加傾向を維持したが、航空機(同15.7%減)などの輸送用機器の減少が響いてマイナスとなった(図表8)。また鉱物性燃料は同21.9%減(前月:同4.6%減)と一段と低下した。油価下落と需要減退を受けて石油製品(同33.7%減)と原油(同25.0%減)がそれぞれ低迷した。このほか、動植物性油脂(同18.4%減)に続いて化学製品(同8.6%減)もマイナスとなった。



インドネシアの19年2月の輸出額(ドル建て、通関ベース)は前年同月比11.3%減(前月:同4.3%減)と低迷した。輸出は主力のパーム油とゴム製品が落ち込むなかでも自動車・同部品を支えに堅調に拡大してきたが、昨年後半からは世界的な需要減退と商品価格の下落を背景に鉱産物や機械類が振るわず、直近4ヵ月連続でマイナス成長となった。また輸入額も前年同月比14.0%減(前月:同2.1%減)と大きく減少した結果、貿易収支は3.3億ドルの黒字となり、前月から13.9億ドル改善した(図表9)。

輸出を品目別に見ると、全体の9割を占める非石油ガスが同10.2%減(前月:同4.1%減)と低迷

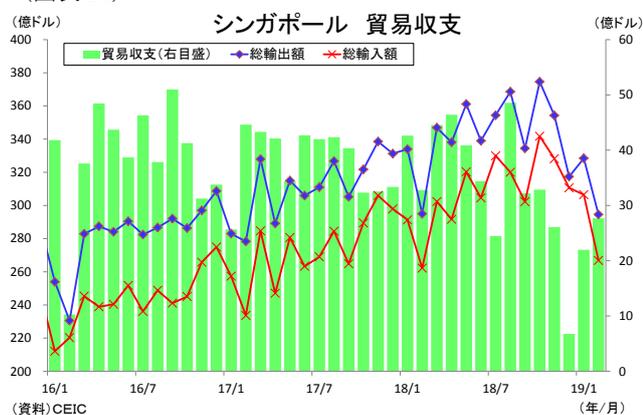


したほか、石油ガスも同21.7%減（前月：同6.7%減）と大きく減少した（図表10）。非石油ガスの内訳をみると、まず輸出全体の7割を占める製造品が同8.3%減（前月：同3.4%減）と低迷した。製造品のうち、鉄・鉄鋼（同43.2%増）や自動車・同部品（同6.7%増）、宝飾品（同12.3%増）が増加したものの、主力の動植物性油脂（同20.6%減）、ゴム製品（同15.3%減）、電気機械（同13.5%減）や機械類（同18.0%減）が減少した。また鉱業品が同20.8%減（前月：同6.0%減）と石炭価格の下落を受けて低迷したほか、農産品も同0.9%減（前月：同9.8%増）と4カ月ぶりのマイナスとなった。

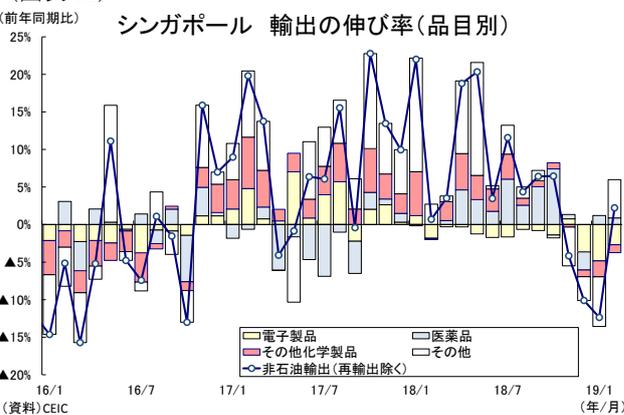
シンガポールの19年2月の輸出額（石油と再輸出除く、ドル建て、通関ベース）は前年同月比2.2%減（前月：同12.4%減）と上昇した。輸出の伸び率は、主力の電子製品と石油化学製品が低迷しているものの、2月は医薬品を支えに4カ月ぶりのプラスに転じた。なお、総輸出額は前年同月比0.2%減（前月：同1.6%減）と上昇する一方、総輸入額は同1.8%増（前月：同5.2%増）と低下した。結果として、貿易収支は27.7億ドルの黒字となり、前月から5.7億ドル黒字が拡大した（図表11）。

輸出（石油と再輸出除く）を品目別に見ると、まず全体の約3割を占める電子製品は同10.3%減（前月：同18.0%減）と、3ヵ月連続のマイナスとなった（図表12）。電子製品の内訳を見ると、主力のIC（同4.8%増）とPC部品（同6.6%増）がプラスに転じたものの、PC（同30.6%減）やダイオード・トランジスタ（同31.3%減）などが低迷した。また電子製品と並び全体の約3割を占める化学は同0.5%減（前月：同3.2%減）と3ヵ月連続で減少した。化学製品の内訳を見ると、石油化学製品が同8.5%減（前月：同14.1%減）と低迷する一方、医薬品が同9.2%増（前月：同12.5%増）と好調を維持した。

（図表 11）



（図表 12）

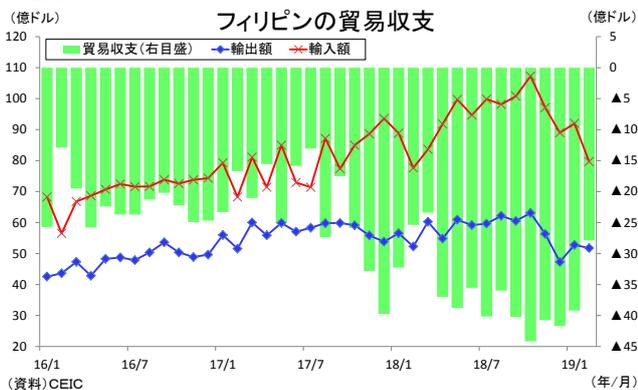


フィリピンの19年2月の輸出額（ドル建て、通関ベース）は前年同月比0.9%減となり、前月の同6.7%減からマイナス幅が縮小した。輸出の伸び率は昨年主力の電子製品を中心に緩やかな増加傾向が続いていたが、12月に大きく下落して以降マイナス圏で推移している。また輸入額は前年同月比2.6%増（前月：同3.6%増）と低下した。結果として、貿易収支は27.9億ドルの赤字となり、前月から11.3億ドル赤字が縮小した（図表13）。

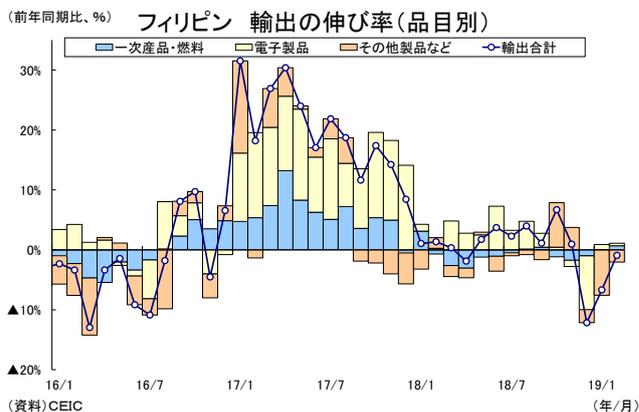
輸出シェア上位10品目を見ると、まず輸出全体の5割強を占める電子製品は同0.8%増（前月：同1.7%増）と低下したが、2ヵ月連続のプラスとなった（図表14）。電子製品の内訳を見ると、主

力の半導体デバイス（同2.1%減）と電子データ処理機（同5.6%減）が減少したものの、家電製品（同49.7%増）と電気通信機器（同55.2%増）が大幅に増加した。その他9品目は総じて減少した品目が多かった。バナナ（同54.6%増）と精錬銅（同41.3%増）、雑品（同21.1%増）、化学（同0.0%増）が増加する一方、金属部品（同27.8%減）、金（同18.4%減）、機械・輸送用機器（同16.7%減）、その他製造品（同12.6%減）、イグニッション・ワイヤーセット（同3.6%減）が減少した。

(図表 13)



(図表 14)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。